

九州地方整備局 同時発表

平成23年 5月31日
国土交通省河川局
砂 防 部

霧島山（新燃岳）噴火に伴う緊急的土石流対策工事の完了について

噴火警戒レベル3（入山規制）が継続している霧島山（新燃岳）において、土砂災害を防止するための緊急対策工事を本年2月から継続的に実施していましたが、既設砂防堰堤の除石やブロック積、土のう積などの緊急的土石流対策工事が、5月31日までに完了しますので、お知らせします。

この緊急的土石流対策工事は、土石流被害の軽減や避難時間の確保を目的とした緊急対策であることから、気象情報や各市町から出される避難に関する情報、土砂災害緊急情報に注意していただき、引き続き、土石流災害へ警戒していただきますようお願いいたします。

【緊急的土石流対策工事の工事内容】 図－1 参照

- ・宮崎県西諸^{にしもろかた}郡高原町：除石52,300m³
- ・宮崎県都城市：除石40,700m³、ブロック積4,076個、土のう積2,995個
- ・今回の緊急的土石流対策工事の総除石量：93,000m³（*）

【参考】今後の対策（予定）

(1) 砂防堰堤等のハード対策

今後さらに各溪流において安全度を高めるため、砂防堰堤の新設等の抜本的な対策を計画的に実施していく予定。

(2) 監視機器等のソフト対策

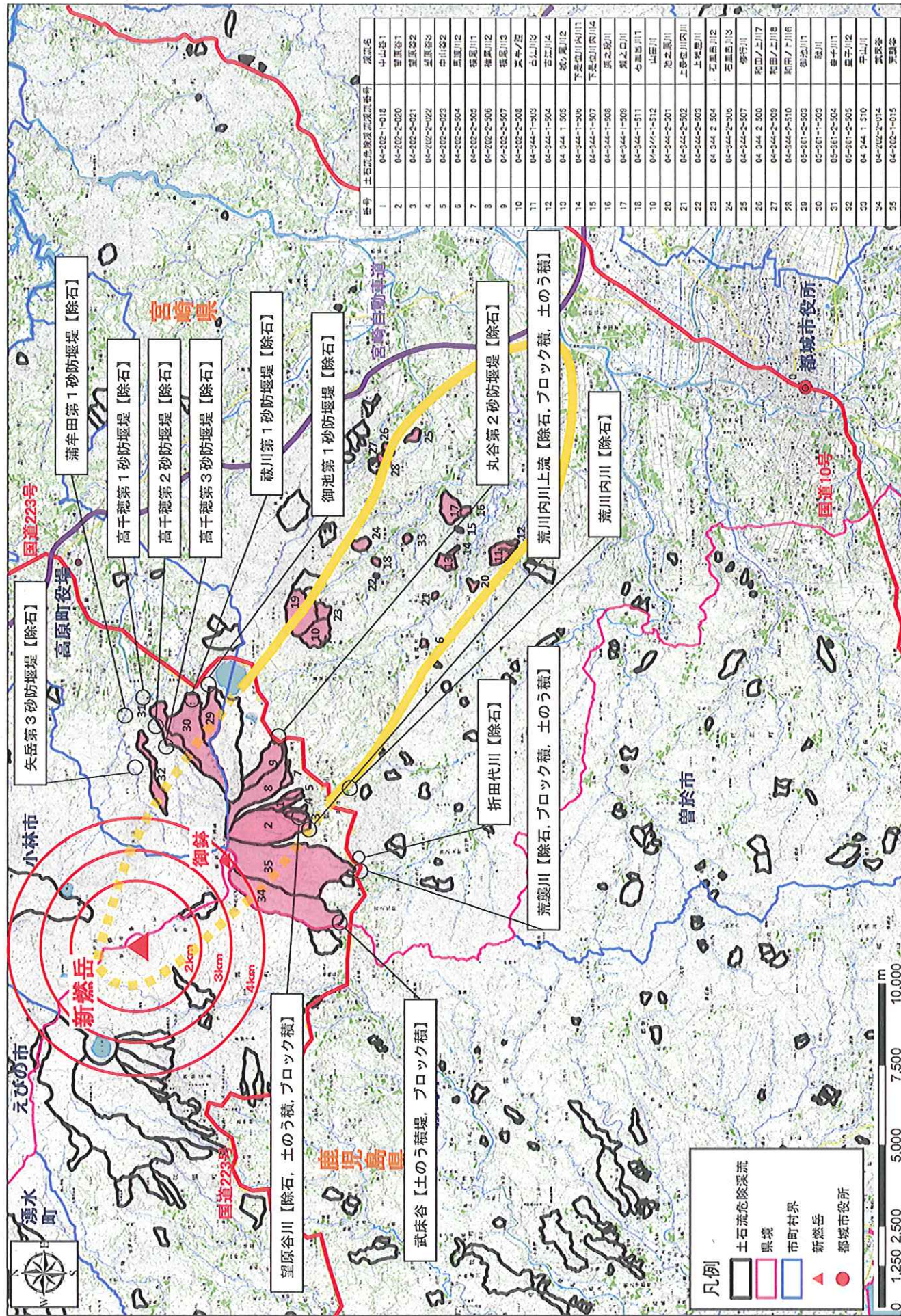
土石流の監視体制の強化を目的として、土石流の検知センサーを高千穂峰東～南を源流とする溪流全てに6月中旬を目処として設置中（図－2、設置済13箇所、設置中10箇所）であり、設置が完了後、情報を関係機関に配信する予定。

※今回の緊急的土石流対策工事の除石量93,000m³と砂防施設整備による確保可能量150,000m³を合わせた総容量243,000m³は、近年の桜島（野尻川）で発生する1回あたりの平均的な土石流の流出量から換算した量に相当します。

問 い 合 わ せ 先	
国土交通省河川局砂防部保全課	保全調整官 浦 真 (内線36-202)
	企画専門官 佐藤保之 (内線36-222)
	代表 03-5253-8111
	直通 03-5253-8470
九州地方整備局 河川部 河川工事課	課長 下田 (内線3711)
	課長補佐 寺下 (内線3713)
	代表 092-471-6331
	直通 092-476-3526
九州地方整備局 宮崎河川国道事務所	副所長 鶴崎 (内線204)
	工務第一課長 岩崎 (内線311)
	代表 0985-24-8221

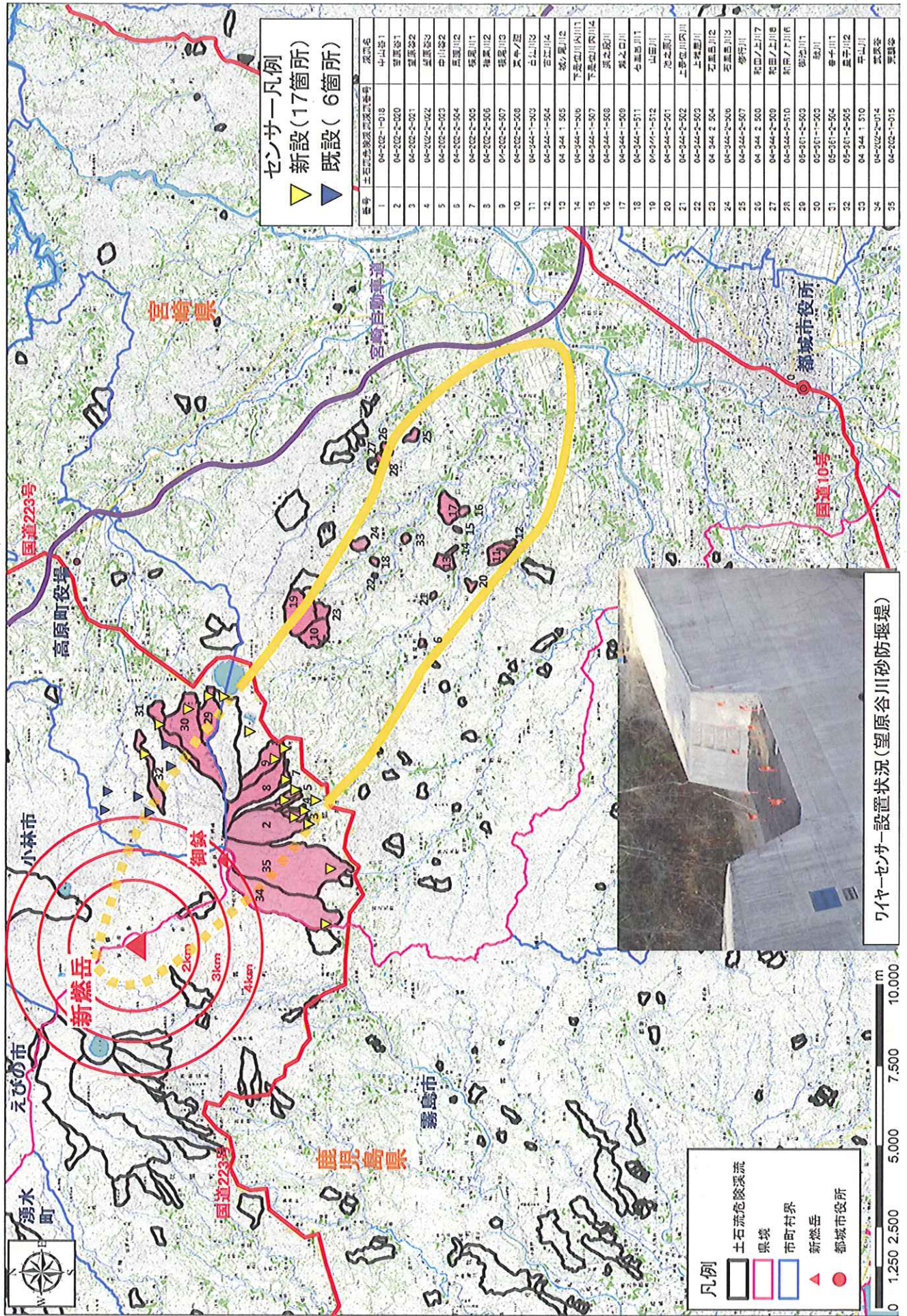
緊急的土石流対策工事 実施済箇所 位置図

図-1



土石流検知センサー 実施箇所 位置図

図-2



凡例

- 土石流危険渓流
- 県境
- 市町村界
- 新燃岳
- 都城市役所

センサー凡例

- 新設(17箇所)
- 既設(6箇所)

番号	主要河川流域別管理番号	流名
1	04-202-1-018	中山谷1
2	04-202-2-020	望原谷1
3	04-202-2-021	望原谷2
4	04-202-2-022	望原谷3
5	04-202-2-023	中山谷2
6	04-202-2-024	長瀬川1
7	04-202-2-025	長瀬川2
8	04-202-2-026	長瀬川3
9	04-202-2-027	長瀬川4
10	04-202-2-028	長瀬川5
11	04-202-2-029	長瀬川6
12	04-202-2-030	長瀬川7
13	04-202-2-031	長瀬川8
14	04-202-2-032	長瀬川9
15	04-202-2-033	長瀬川10
16	04-202-2-034	長瀬川11
17	04-202-2-035	長瀬川12
18	04-202-2-036	長瀬川13
19	04-202-2-037	長瀬川14
20	04-202-2-038	長瀬川15
21	04-202-2-039	長瀬川16
22	04-202-2-040	長瀬川17
23	04-202-2-041	長瀬川18
24	04-202-2-042	長瀬川19
25	04-202-2-043	長瀬川20
26	04-202-2-044	長瀬川21
27	04-202-2-045	長瀬川22
28	04-202-2-046	長瀬川23
29	04-202-2-047	長瀬川24
30	04-202-2-048	長瀬川25
31	04-202-2-049	長瀬川26
32	04-202-2-050	長瀬川27
33	04-202-2-051	長瀬川28
34	04-202-2-052	長瀬川29
35	04-202-2-053	長瀬川30



ワイヤセンサー設置状況(望原谷川砂防堰堤)

高千穂第2砂防堰堤(上流から下流を望む)



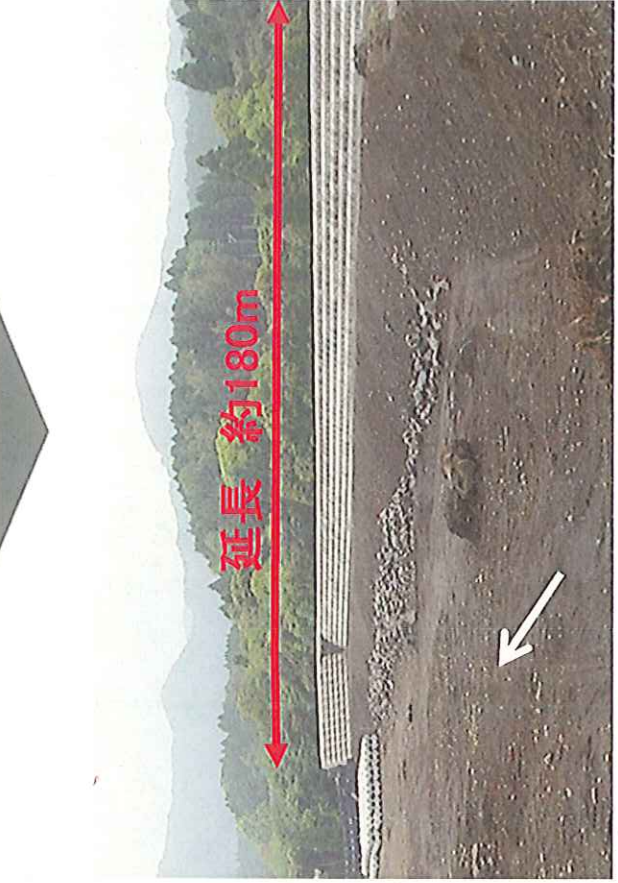
着手前



完了

満砂状態の既設砂防堰堤の除石により、容量を確保することで、土石流を捕捉します。

荒襲川(上流から下流を望む)



ブロック積により、断面を確保することで、土石流の氾濫を防止するとともに捕捉します。